

12月定例会

予算等審査特別委員会

市税の落ち込みに
ついて

問 今回の補正予算で市税の落ち込みが計上されているが、これはこの不景気の影響によるものか。

答 市民税においては、平成20年中の所得が下がったため。従って当初見込みから給与所得は1,280万円の減額、営業所得は280万円の減額となり、

予 算等審査特別委員会(議長を除く21人の議員で構成、委員長は佐々木議議員、副委員長は照井文雄議員)は、条例4件、予算6件、その他4件について付託を受けて2日間の審議を行いました。今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑がなされました。その結果、全14議案が原案のとおり可決されました。

その他で290万円の減額となった。一番影響したのは、法人市民税が7千万円も減額したことである。それも減額したことである。それ程市内の経済状況は停滞している。更にタバコ税が350万円の減額となった。これは、景気のせいばかりでなく市民の健康志向によるものと思う。そうした中で農業関係が200万円の増額、税の収納率が96.5%から97%にアップして370万円の増額、特別徴収により380万円の増額となった。

赤羽根スキー場の
悪臭について

問 赤羽根スキー場に悪臭が立ち込め、スキー客に不快感を与えている。当局としても対策を講じるとのことであったが、その後どのような対応をしてきたのか。

答 その会社と住田町では一緒になって改善策に取組んできていますが、思うような悪臭改善がなされていないのが現状である。防臭対策と消臭対策については現在取組んでいる最中である。

問 遠野市の観光地の一つとして、或いは冬場のスポーツ振興の場としての認識のもと、ハード面での工夫とか書面での確認行為などはできないものか。

答 これまでの交渉の内容については文書化しながら、ソフト面も含めながら協議を行ってきた。



悪臭が問題になっている赤羽根スキー場

就農支援雇用対策
事業費について

問 この事業は、農業者個人や集落営農組織等での取組が可能。特に農業の第6次化推進の中で、加工部門等に携わる事により所得向上にも繋がるので、取り組んでどうか。

答 個人には1年間を通じて作業を分担、仕事を出す事は難しい。農業法人等を創り、雇用を考えて頂きたい。新年度事業予算の中で、農業の雇用も視野に入れている。

ビジョンにおける
畜産振興はどうなる

問 畜産振興を考えた場合、公共牧野をどう生かしていくか重要であると思う

が現在の利用頭数は。
答 管外からの利用が減ってきて昨年より400頭ほど少ない。

問 飼養農家が利用しやすい環境づくりと農家の増頭も考える必要があるのではないか。又、自給飼料確保の為に、採草できる所はロールなどにして農家に安く提供することも必要ではないか。

答 農林水産振興ビジョンの6年間の中で考えていきたい。さらに今までの和牛は繁殖が主流だった。生育に関しては前沢、江刺が中心になってきたが本来の畜産振興を考えた場合、繁殖から肥育までの一貫経営が理想である。その為には農家のリスクも大きいので企業の力も借りたい。